



すべての人が、幸せになる権利を持っています。
人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

世界の勇気ある女性賞

2024年3月5日、アメリカ合衆国のホワイトハウスで、アメリカ合衆国の国務省が授与する「世界の勇気ある女性賞」の授賞式が行われました。2007年から始まったこの賞は、人権擁護や女性の地位向上、男女平等などの問題に対して顕著な活動をした女性に贈られるもので、世界各国の代表を各国のアメリカ大使館が選定します。今年も、自らの性被害を訴え、自衛隊の改革にもつなげたとして、元陸上自衛官の五ノ井里奈さんを含む12人が選ばれました。日本では9年前の2015年にNPO法人マタハラNet～マタニティハラスメント対策ネットワーク創設者の小酒部さやかさんが初めて受賞されており、五ノ井さんは二人目になります。

授賞式のあいさつの中で、ジル・バイデン大統領夫人は「この壇上にいる女性たちは、沈黙することを拒み、恐怖やリスクにさらされながらも、自分自身やみんなのために声を上げた人たちだ」とたたえました。また、国務省は五ノ井さんの授賞理由について「自衛隊での性被害を訴え、日本社会ではタブー視されている問題に光をあてた」と説明しています。

授賞式のあと五ノ井さんは、「一人で声をあげて闘っているとき、明日に希望が持たず、感情も失われ、裁判終了後も生きる意味がわからない日々を送っていましたが、アメリカへいき、ファイナリストの11人から沢山のハグと愛を与えられたことで、失われていた感情を取り戻すことができました。」「自衛隊が好きで心から感謝しているからこそ、根本的に変わって欲しいという思いを持って行動してきました。」とブログに記しています。また、柔道着で授賞式に出席したことについては、柔道を通して心も体も強くなり、人生においても戦う力に変わっていったこと、そして、その柔道に敬意を表すためだと話しています。今後の活動については、柔道や講演活動を通して“声を上げる”大切さを伝えるとともにハラスメントに悩んでいる人の居場所を作っていきたいということです。

人権の重要性を再認識し、夢の実現に向けて頑張る若者が活躍できる社会をしっかりと築きあげることが私たちの責務であることは言うまでもありません。